

1 テーマ

ICTを活用した少人数授業における協働的な学びについて

(1・2学年 国語科・算数科)

2 テーマ設定の理由または、課題

本校は、一人学年が3学年ある。他の学年も2人または4人である。そして、同じ中学校区である上阿多古小学校でも本校と同じような極小規模になりつつあるため、熊小と上小とでオンラインによる合同授業を行うことにより、自分の思いを、自信をもって伝えたり、自分の考えを友達に分かりやすく説明をしたりする交流の場を設定したいと考えた。

自分の思いを、自信をもって伝える力を身に付けさせたいと考えた。

3 実践内容

第1回交流会（6月22日）

☆自己紹介と質問タイム

6月28日に四小連合活動があるため、当日スムーズに活動を始められるように事前に自己紹介をしたり質問したりした。

交流会では、相手を見ながらタブレットの前で話をした。

自分の学年や名前の他に好きな食べ物や好きな遊びについて、自己紹介の中で話した。

質問タイムでは、「好きな季節はなんですか。」など子供たちが予想しなかった質問があったり、考えていた質問が自己紹介の内容で説明があったにも関わらず、質問してしまったりした。すぐに返答できない質問は、黙り込んでしまう場面もあった。しかし、教師の助言で四小連合活動に向かうバスで返答する約束をすることができた。



第2回交流会（7月13日）

☆国語科の発表

1年生・・・「おおきなかぶ」

1年生は一人学年であるため教師と2人で「おおきなかぶ」の劇を発表した。

おじいさんがおばあさんと呼ぶところでは「かぶが、大きてぬけないから手伝っておくれ。」などとせりふを入れながら行った。

練習を行っていたので、堂々と発表することができた。



2年生・「スイミー」

2年生は、「スイミー」のあらすじを、イラストを入れて説明をした。2年生は二人学年なので、1人が説明をしているときにもう1人がイラストを出した。

事前に練習を行ったので、2人の息が合い堂々と発表することができた。



感想発表

最後に互いの感想発表を行った。

上阿多古小学校の子供たちの発表を見るのは、初めてであり、何を言えばよいのか、分からず困ってしまった。

教師が「発表の内容のことでも、声の大きさなどでもいいよ。」と、助言をして、感想を言うことができた。



4 成果と課題

- 第1回交流会で自己紹介を行ったので、四小連合活動のバスで会った際には、恥ずかしそうであったが、挨拶ができた。
- これまでは、自校の上級生に学習の成果を発表することがあった。今回のオンラインで他校の同学年の児童に向けて発信することで、これまで以上に自信をもつことができた。
- 2回目の交流会では、1回目のときよりも、カメラを意識して話すことができるようになった。

△ 事前に練習した内容については、堂々と発表することができるが、感想発表などその場で考えて自分の思いを伝えることはまだまだ苦手なようで、教師の耳元で自分の思いを言い、これでよいか確認する場面があった。

オンライン交流を重ねることによって、いつもの仲間以外の人がいっても自分の思いを伝えられるようにしていきたい。

△ 自分の発表が褒められても、どのように反応すればいいか分からないようで、教師が「ありがとうございます。」などと反応すると、真似することができた。

感想発表などすぐに反応できないときは、どうしたらよいか。また、褒められたときはどうしたらよいかなど、子供たちと話し合っていきたい。